

令和7年度シラバス（第二看護学科）

29期生 3年次

授業科目	関係法規	担当教員	梅木 幹司	単位	1	学習時間数	15
目的	人間として健康な生活を維持するために必要な法律と、医療・看護に従事する者の身分や業務に関する法律を学ぶ。						
目標	1 法制度の仕組みを理解する。 2 わが国の保健医療福祉および労働に関する法制度を理解する。						
回	項 目	内 容			教授学習方法		備 考
1	法律の概要	法とは何か わが国の法律の仕組み			講義		
2	医療法規①	保健師助産師看護師法、医療法、医師法、 薬剤師法			講義		
3	医療法規②	臓器移植法、救命救急法、診療放射線技師法、 臨床検査技師等に関する法律、理学療法士及び 作業療法士法、言語聴覚士法、社会福祉士及び 介護福祉士法、精神保健福祉法			講義		
4	薬事法規 保健衛生法規	薬事法など 地域保健法、母子保健法、学校保健安全法など			講義		
5	予防衛生法規 環境衛生法規	感染症法、予防接種法など 環境基本法、食品衛生法など			講義		
6	福祉関係法規	社会福祉法、生活保護法、障害者基本法、 児童福祉法、老人福祉法など			講義		
7	看護職員の確保及び 労働に関する法規	労働基準法 育児・介護休業法 看護師等の人材確保の促進に関する法律			講義		
8	試験						

評価の方法 : 筆記試験(100点)

テキスト : 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度4 看護関係法令 医学書院

参考文献 : 適宜紹介

令和7年度シラバス（第二看護学科）

29期生 3年次

授業科目	社会福祉	担当教員	横山 順一	単位	1	学習時間数	15
目的	社会福祉の基礎的理論や歴史的背景から、社会福祉・社会保障制度の仕組みや社会資源について理解し、保健医療福祉の連携・協働における看護の役割を学ぶ。						
目標	1 社会福祉・社会保障制度及びその対象者、ソーシャルワークの概要を理解する。 2 社会資源と医療保障の関連と保健・医療・福祉の協働の意義を理解し、看護の役割を理解する。						
回	項 目	内 容				教授学習方法	備 考
1	社会福祉とは	社会福祉の意味 社会福祉の理念 社会福祉の体系				講義	
2	社会の変化と社会保障・社会福祉の基本的動向	生活問題の展開 社会保障・社会福祉の基本的動向				講義	
3	社会保障制度と社会福祉制度	社会保障制度の概要 社会保障の機能 社会福祉の法制度				講義	
4	社会保障制度	医療保障 所得保障 労働者保険制度（労災保険・雇用保険）				講義	
5	公的扶助	貧困・低所得問題と公的扶助制度 生活困窮者福祉				講義	
6	社会福祉サービス 高齢者福祉	児童家庭福祉 高齢者の生活の現状と課題・介護保険制度				講義	
7	社会福祉サービス 障害者福祉	障害者の生活の現状と課題 障害者自立支援法の成立背景と現状				講義	
8	社会福祉援助	社会福祉援助の基礎理論 福祉専門職とソーシャルワーク 医療看護福祉の連携				講義	
	試験						

評価の方法 : 筆記試験（100点）

テキスト : 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 3 社会保障・社会福祉 医学書院

参考文献 : 適宜紹介

令和7年度シラバス(第二看護学科)

29期生 3年次

授業科目		地域・在宅看護援助論2 (看護過程・地域看護活動)		単位	I	学習時間数	20
担当教員	村上 陽子	実務経験	○・無	主な実務経験場所		山口県立総合医療センター	
目的	地域・在宅で生活する人とその家族の暮らしを支える看護実践と看護の展開方法を学ぶ。						
目標	1 在宅で生活する療養者とその家族への看護の展開方法を理解する。 2 地域・在宅における時期別の看護を理解する。 3 在宅で療養する対象者とその家族への看護の理解を深める。						
回	項 目	内 容			教授学習方法		備考
1	地域・在宅看護の展開	1 地域・在宅看護における看護過程 2 地域・在宅看護の展開方法 (1) 情報収集とアセスメント (2) 看護目標の設定・計画 (3) 実施と評価			講義		
2・3	地域・在宅における時期別の看護	1 在宅看護における介入時期別の特徴 健康な時期・外来受診期 入院時・在宅療養準備期 在宅療養移行期 在宅療養安定期 急性増悪期 終末期			講義 演習		
4	地域在宅看護の事例展開 ・パーキンソン ・認知症 ・終末期がん ・独居 ・医療的ケア児 など	1 訪問看護の展開 (1) 情報の整理			演習		
5		(2) 情報のアセスメント・看護計画立案					
6		(3) 訪問計画作成					
7		(4) グループ演習					
8・9		(5) 発表					
10	試験						

評価の方法：筆記試験 演習内容 課題レポート (100点)

テキスト：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 医学書院

写真でわかる訪問看護 インターメディアカ

令和7年度シラバス（第二看護学科）

29期生 3年次

授業科目		成人看護援助論3 (造血・生体防御・感覚・認知・運動機能障害の看護)	単位	1	学習時間数	30
担当教員		実務経験	主な実務経験場所			
	水津 達郎 (28)	(有)・無	山口県立総合医療センター			
	非常勤講師 (2)	(有)・無	備考参照			
目的	生体防御機能、肝機能、運動機能、排泄機能、脳・神経機能、血液・造血機能に障害にある対象を理解し、健康レベルに応じた看護を学ぶ。					
目標	1 生体防御機能に障害がある対象とその看護を理解する。 2 肝機能障害のある対象とその看護を理解する。 3 運動機能障害のある対象とその看護を理解する。 4 排泄機能障害のある対象とその看護を理解する。 5 運動機能障害のある対象とその看護を理解する。 6 脳・神経機能障害のある対象とその看護を理解する。 7 血液・造血機能障害のある対象とその看護を理解する。					
回	項 目	内 容	教授学習方法	備考		
1	生体防御機能障害のある患者の看護	1 生体 防御機能障害の原因と障害に応じた看護 2 アレルギー性疾患のある患者の病期や機能障害に応じた看護 スキンテスト、減感作療法 アナフィラキシーショック	講義	【テキスト】 成人看護学11 (アレルギー 膠原病 感染症)		
2		3 自己免疫疾患のある患者の病期や機能障害に応じた看護 ステロイド療法 4 血液感染症のある患者の病期や機能障害に応じた看護 抗HIV療法				
3	肝機能障害のある患者の看護	1 肝機能障害の原因と機能障害 (浮腫・腹水 黄疸 肝性脳症 出血傾向 食道静脈瘤) 2 肝炎のある患者の病期や機能障害に応じた看護 肝底療法、インターフェロン療法	講義	【テキスト】 成人看護学6 (消化器)		
4		3 肝硬変、肝臓がんのある患者の病期や機能障害に応じた看護 肝生検 食道静脈瘤内視鏡治療 肝動脈塞栓術、肝切除術				
5	運動機能障害のある患者の看護	1 運動機能障害の原因と機能障害 姿勢機能障害、移動機能障害、作業機能障害 2 四肢切断をした患者の看護	講義	【テキスト】 成人看護学10 (運動器)		
6		3 骨折をした患者の病期や機能障害に応じた看護 ギブス固定・各種牽引療法 骨接合術・人工関節置換術				
7		4 脊髄損傷患者の病期に応じた看護 脊髄腔造影検査 受容過程				
8	排泄機能障害のある患者の看護	1 排泄機能障害の原因と機能障害 2 腎臓腫瘍の患者の病期や機能障害に応じた看護	講義	【テキスト】 成人看護学8 (腎 泌尿器)		
9		3 膀胱がんにある患者の病期や機能障害に応じた看護 膀胱鏡検査 膀胱切除術(尿路変更術)				
10	脳・神経機能障害のある患者の看護	1 脳・神経障害の原因と機能障害 生命維持活動調節機能障害の原因と症状 運動・感覚機能、言語、高次脳機能障害の原因と症状 頭蓋内圧亢進症	講義	【テキスト】 成人看護学7 (脳・神経) 臨床外科看護総論 臨床外科看護各論		
11		2 脳・神経機能障害がもたらす生命・生活への影響				
12		3 クモ膜下出血のある患者の病期や機能障害に応じた看護 脳脊髄液検査 脳血管造影 開頭術・脳室ドレナージ術・脳室-腹腔シャント術 血管内治療(血栓溶解療法・静脈瘤塞栓術)				
13	血液・造血機能障害のある患者の看護	1 血液・造血器障害の原因と機能障害 易感染、出血傾向、貧血症状 2 悪性リンパ腫のある患者の病期や機能障害に応じた看護 骨髄穿刺 免疫抑制剤 放射線療法 外来治療を継続する患者の支援	講義	【テキスト】 成人看護学4 (血液 造血器)		
14		3 白血病のある患者の看護の実際 化学療法 骨髄移植	講義 (外部講師)			
15	試験					

評価の方法：筆記試験（水津100点）

テキスト：系統看護学講座 専門分野 成人看護学4血液・造血器、成人看護学6消化器、成人看護学7脳・神経、成人看護学8腎・泌尿器
成人看護学10運動器、成人看護学11アレルギー・膠原病・感染症 医学書院

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、臨床外科看護各論 医学書院

看護過程に沿った対応看護 病態生理と看護のポイント 学研

令和7年度シラバス(第二看護学科)

29期生 3年次

授業科目		老年看護援助論2 (治療・症状別看護)	単位	I	学習時間数	30
担当 教員	実務経験		主な実務経験場所			
	高島 雄太 (28)		山口県立こころの医療センター			
	非常勤講師 (2)		備考参照			
目的	治療過程における高齢者の看護を理解する。					
目標	1 健康障害のある高齢者の看護を理解する。 2 治療を必要とする高齢者の看護を理解する。 3 終末期にある高齢者とその家族を理解する。					
回	項 目	内 容			教授学習方法	備考
1・2	認知症高齢者の 看護	イントロダクション 認知症高齢者の看護			講義 TBL	
3		認知症患者の看護の実際			講義	萩市民病院 看護師：泉 忠詞
4・5	脳神経疾患をも つ患者の看護	脳梗塞・脳出血・パーキンソン症候群			講義 TBL	
6	循環器疾患をも つ患者の看護	心不全（慢性期）			講義 TBL	
7	呼吸器疾患をも つ患者の看護	誤嚥性肺炎 慢性閉塞肺疾患			講義 TBL	
8	運動器疾患をも つ患者の看護	脊椎圧迫骨折・大腿骨頸部骨折・骨粗鬆症			講義 TBL	
9	膠原病疾患をも つ患者の看護	関節リウマチ			講義 TBL	
10	腎・泌尿器疾患 患者の看護	腎不全 前立腺肥大症			講義 TBL	
11	感覚器疾患患者 の看護	白内障・緑内障・老人性難聴			講義 TBL	
12	難病患者の看護	A L S			講義 TBL	
13・14	終末期の看護	終末期患者の日常生活行動と看護 看取り 家族支援			講義 TBL	
15	試験					

評価の方法：筆記試験（100点） 小テスト

テキスト： 系統看護学講座 専門分野 老年看護学，医学書院
 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院
 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 学研

令和7年度シラバス(第二看護学科)

29期生 3年次

授業科目		看護の統合と実践Ⅰ (看護管理・国際看護)	単位	Ⅰ	学習時間数	30
担当 教員			実務経験	主な実務経験場所		
	伊藤 加奈恵 (6)		(有)・無	山口県立総合医療センター		
	林 千恵子 (2)		(有)・無	山口県立総合医療センター		
	第二看護学科教員 (12)		(有)・無	山口県立総合医療センター等		
	非常勤講師 (10)		(有)・無	備考参照		
目的	看護管理・看護研究・災害看護・国際看護を学ぶことで看護の視野を広げ、組織の一員として、主体的に看護を学び続ける姿勢を養う。					
目標	1 看護をマネジメントできる基礎的知識を理解する。 2 病院における看護管理を理解する。 3 看護研究の方法を理解し、論理的思考とその表現方法を学ぶ。 4 災害が人々の生命や生活に影響を及ぼすことを理解し、災害各期の看護活動を学習する。 5 国際社会における様々な健康課題を理解し、国際的な看護活動について考えることができる。					
回	項目	内容		教授 学習内容	備考	
1	看護とマネジメント	1 看護とマネジメント 2 看護ケアのマネジメント 3 看護サービスのマネジメント		講義 演習	伊藤	
2・3	組織とマネジメント	1 組織とマネジメント 2 リーダーシップとマネジメント		講義 演習		
4	病院における看護管理	1 病院における看護部門・看護組織 2 看護単位とその運営 3 看護部職員の職責		講義	長門総合病院 看護部長： 花島まり	
5	病院における看護管理	1 病院における看護記録		講義	萩市民病院 看護課長： 藤村あずさ	
6・7・8	看護研究	1 看護研究発表会準備		発表会 準備	第二看護学科 教員 2年生参加	
9・10 ・11		1 看護研究発表会 2 振り返り		発表会		
12	災害と看護	1 災害医療 2 災害の種類と特徴		講義	訪問看護ステーションこころの樹 クリティカルケア認定看護師、 日本DMAT隊員： 磯本一夫	
13		1 災害各期の看護 (1) 災害看護の特徴 (2) 災害各期の特徴 (3) 各期における保健医療の役割と看護 (4) 各期における要援護者への看護				
14	国際看護の基礎知識	1 国際社会における保健医療福祉の実情		講義	林	
15	国際協力活動	1 国際社会における看護師としての協力・国際協力機構(JICA)			山口県JICAデスク国際協力推進員：水野美加 JICA海外派遣看護師：水野美香	
	試験					

評価の方法：筆記試験・レポート・演習内容

(伊藤：30点/看護研究：40点/磯本：15点/林：15点)

テキスト：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学|看護概論 医学書院

系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践|看護管理 医学書院

系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践3 災害看護学・国際看護学 医学書院

参考文献：看護研究黒田裕子のStep by Step

令和7年度シラバス(第二看護学科)

29期生 3年次

授業科目		看護の統合と実践2 (医療安全)	単位	1	学習時間数	15
担当 教員			実務経験	主な実務経験場所		
	林 千恵子：(13)		(有)・無	山口県立総合医療センター		
	非常勤講師（2）		(有)・無	備考参照		
目的	医療事故の要因分析や安全対策を学ぶことで、安全に看護ができる姿勢を養う。。					
目標	1 医療事故の構造を理解し、看護事故防止の考え方を理解する。 2 医療事故がどのような要因で起きているかを理解する。 3 さまざまな状況で起きた看護事故の分析と医療安全対策について考える。 4 感染対策を学び、感染症患者の看護を理解する。					
回	項目	内容			教授学習方法	備考
1	医療安全	1 人間の行動と医療安全 2 医療安全を学ぶことの意義			講義・演習	
2	安全管理	1 医療事故に伴う看護職の責任 2 組織としての医療安全対策 3 医療事故発生時の対応			講義・演習	
3	組織的な安全管理	1 間違いが起こりやすい状況と改善策 2 SHEL分析、根本原因分析法（RCA） 3 看護事故防止の視点			講義・演習	
4	医療安全対策	1 チーム医療におけるノンテクニカルスキル			講義・演習	
5		1 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 2 新人特有の危険な思い込みと行動パターン 3 間違いを誘発する負荷業務			講義	
6		1 輸液ポンプ・シリンジポンプでの事故防止 2 輸血業務と事故防止 3 間違いによる事故を防ぐ3ステップ			講義・演習	
7	感染管理の実際	1 感染症概論 市中感染と新興感染・再興感染症 2 感染経路に対応した感染予防 3 感染症患者の観察とアセスメント 4 感染症患者の看護 5 施設内感染対策の実際			講義	山口県立総合医療センター 感染管理認定看護師： 山田恭子
8	試験					

評価方法：筆記試験 林(100点)

テキスト：系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践2 医療安全 医学書院

医療安全ワークブック 医学書院

系統看護学講座 成人看護学II アルジャー・膠原病・感染症 医学書院

令和7年度シラバス（第二看護学科）

29期生 3年次

授業科目		看護の統合と実践3 (状況・状態の看護)	単位	1	学習時間数	15
担当教員			実務経験		主な実務経験場所	
	戸川 優子		⑦・無		山口県立総合医療センター	
	村上 陽子		⑦・無		山口県立総合医療センター	
目的	自己の看護実践能力を知り、課題を明確にする。					
目標	1 患者の状態に応じた看護の優先順位を考えた日常生活援助を実施する。 2 課題に対して臨床判断を行い、安全・安楽に対応する。 3 ヒューマンケアの基本的能力に基づいた看護を実践する。 4 OSCEをとおして、自己の課題を明確にする。					
回	項目	内容			教授学習方法	備考
1	イントロダクション 対象理解	授業科目の位置づけ、概要についての説明 事例の説明、対象理解			オリエンテーション グループワーク	
2	対象理解	事例に基づく看護過程の展開 関連図・データベースアセスメント・問題リスト・ 看護計画・援助計画			グループワーク	
3・4	対象理解 OSCEの説明 日常生活の援助技 術の練習	筆記試験 全体像・看護診断・看護計画の共有 OSCEの目的、方法 技術練習 プレOSCEの計画			試験 発表会	
5・6	プレOSCE	プレOSCEの実施			演習	
7	OSCE試験	看護実践能力の評価			試験	
8	まとめ	リフレクションを通して自己の課題を明確にする。			演習	

評価：筆記試験（20点） グループワークへの取り組み・ポートフォリオ（10点） OSCE試験（50点）
レポート（20点）

令和7年度シラバス（第二看護学科）

29期生 3年次

授業科目		看護の統合と実践4 (知識と技術の統合)	単位	1	学習時間数	30
担当 教員		実務経験		主な実務経験場所		
	篠田 由佳里	(有)無		山口県立総合医療センター		
	小西 恵	(有)無		都志見病院		
目的	複数の課題や時間的制約の中で看護を行うことで、判断力や応用力を養う。					
目標	1 複数の課題に対して、患者の状態に応じた看護の優先順位を考えた計画を立案する。 2 時間的制約の中で患者の状態・状況に応じ、安全に看護を実施する。 3 多重課題が生じた中で、患者の状態・状況に応じた臨床判断を行い、安全に対応する。 4 チームで情報交換を行い、協働して看護を実践する。 5 演習をとおして、自己の課題を明確にする。					
回	項 目	内 容			教授学習方法	備考
1	オリエンテーション	1 目的・目標 2 演習の進め方・評価方法 3 事例紹介(複数事例) 4 チーム編成			講義	
2	計画立案	1 事例患者の学習 疾患の理解・患者の状況把握 患者個々の関連図・看護計画・援助計画の作成			グループ学習	
3		2 チーム(複数患者)の行動計画の作成 看護の優先順位を考える(根拠の明確化)				
4	計画発表 計画修正	1 行動計画の発表・質疑応答 2 行動計画の修正			発表会 グループ学習	
5						
6	プレOSCE	1 援助計画・行動計画に基づいた技術確認 2 援助計画・行動計画の評価修正 3 教員による技術確認			演習	
7						
8						
9	OSCEオリエンテーション	1 OSCEの動き・リフレクションの動き 2 OSCEの準備			講義	
10	OSCE	1 事例のその日の状況提示(必要時行動計画の修正) 2 OSCEの実施(客観的臨床試験) 突発的な事態、予期しない患者の反応 時間の切迫			試験	
11		3 リフレクション 判断の根拠の明確化 状況と対応の分析 自己の課題の明確化				
12						
13						
14	まとめ 振り返り	1 まとめの会 学びの明確化 学びの発表・意見交換			発表会	
15		2 振り返りレポート作成				

評価の方法:行動計画(20点)OSCE状況(40点)リフレクション参加状況(20点)レポート(10点)チーム学習参加状況(10点)

令和 7 年度シラバス（第二看護学科）

授業科目	成人・老年看護学実習Ⅰ (急性期実習)	担当 教員	水津 達郎	開講 年次	2年次～ 3年次	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的 急性期にある対象を理解し、健康の各段階にある対象及びその家族に対し看護できる基礎的能力を養う。									
目標 1 周術期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する。 2 周術期にある対象の健康上の課題を判断し、解決に導く方法を学ぶ。 3 周術期にある対象の健康状態に応じた支援方法を身につける。 4 周術期にある対象の生命の尊厳と人格を尊重し、援助関係を形成する基礎的能力を身につける。 5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 6 周術期の健康回復に向けて継続看護の必要性を認識し、保健医療福祉チームの一員として看護師の役割を理解する。 7 周術期にある対象及び家族との関わりをとおして、その人らしい生活を支える看護について考える。									
実習計画 1 実習期間 11日間 2 実習施設 萩市民病院 (東病棟・西病棟・手術室) 3 実習方法 手術を受ける対象を受持ち、看護過程を展開し周手術期に必要な看護を行う。 手術を見学する。 (1) 病棟オリエンテーション、手術室オリエンテーション(実習2日目) (2) 初期計画検討カンファレンス(手術見学の日程を考慮し調整する。) 全体関連図・看護診断・看護計画を提示し、検討する。 (3) テーマカンファレンス (4) 学びの会(両病棟合同)(実習10日目) 情報共有し、学びを深める。 (5) 学内実習 (実習1日目) 対象理解を深めるため、疾患や治療の学習を行う。 事例に合わせた技術練習を行う。 (実習11日目) 実習の経験を振り返り、自己の学びをまとめる。 文献などでエビデンスを確認する。 グループで情報共有を行い、学びを深める。									
評価方法 実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。									
テキスト 講義・実習オリエンテーションで指示したテキスト及び資料									

令和 7 年度 シラバス (第 二 看 護 学 科)

授業科目	成人・老年看護学実習2 (慢性期・終末期)	担当 教員	高島 雄太	開講 年次	2年次～ 3年次	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	慢性期・終末期にある対象を理解し、健康の各段階にある対象及びその家族を支援する力を養う。								
目標	1 慢性期・終末期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する。 2 慢性期・終末期にある対象の健康上の課題を判断し、解決に導く方法を身につける。 3 慢性期・終末期にある対象の健康状態と生活環境に応じた支援方法を身につける。 4 慢性期・終末期にある対象の生命の尊厳と人格を尊重し、援助関係を形成する基礎的能力を身につける。 5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 6 継続看護の必要性を認識し、保健医療福祉チームの一員として看護師の役割を理解する。 7 慢性期・終末期にある対象との関わりをとおして、その人らしい生活を支える看護について考える。								
実習計画	1 実習期間 11日間 2 実習施設 都志見病院（3階病棟・6階病棟・透析室） 3 実習方法 慢性期・終末期にある対象を1人受け持ち、看護過程を展開し必要な看護を行う。 (1) 病棟オリエンテーション（実習2日目） (2) 初期計画検討カンファレンス（実習3～4日目頃） 全体関連図・看護診断・看護計画を提示し、検討する。 (3) テーマカンファレンス（実習5日目頃） (4) 中間評価検討カンファレンス（実習7～8日目頃） 看護計画の評価・今後の看護の方向性を確認する。 (5) 学びの会（実習10日目） 情報共有し、学びを深める。 (6) 学内実習日 （実習1日目） 対象理解を深めるため、疾患や治療の学習を行う。 事例に合わせた技術練習を行う。 （実習11日目） 実習での経験を振り返り、自己の学びの確認をする。 文献などでエビデンスを確認する。 グループで情報共有を行い、学びを深める。 (7) 透析室実習（1日間：実習2週目以降） 血液透析と透析室看護の実際を見学する。 療養者と関わり、日常生活の実際を知る。 学びの会にて血液透析を受ける療養者の看護について学びを深める。								
評価方法	実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。								
テキスト	講義で使ったテキストおよび講義資料								

令和 7 年度 シラバス (第 二 看 護 学 科)

授業科目	母性看護学実習	担当 教員	小西 恵	開講 年次	2年次～ 3年次	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	妊娠・分娩・産褥各期及び新生児期にある対象の特徴を理解し、母子とその家族に必要な看護ができる基礎的能力を養う。								
目標	1 妊娠・分娩・産褥各期及び新生児期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 2 妊婦・産婦・褥婦・新生児（胎児）の状態を根拠に基づいて解釈・分析し、必要な看護を考察する。 3 妊婦・産婦・褥婦・新生児に必要な看護を身につける。 4 妊婦・産婦・褥婦・新生児（胎児）及びその家族の生命の尊厳と人権を尊重し、看護専門職として援助関係を形成する基礎的能力を身につける。 5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 6 母性看護における継続看護の必要性を認識し、保健医療福祉チームの一員として、看護師の役割を理解する。 7 母性看護学実習をととして、その人らしい生活を支える看護について考える。								
実習計画	1 実習期間 11日間 2 実習施設 長門総合病院 3階病棟 産婦人科外来 3 実習方法 実習ラウンド表に基づき、学生1～2名でそれぞれの実習場所に別れ、実習を行う。 (1)病棟・外来オリエンテーション・手術室オリエンテーション（実習2日目） (2)褥室（4～5日間） 褥婦を受け持ち、看護過程を展開し必要な看護を行う。 テーマカンファレンスを行う。 (3)新生児室（2～3日間） 新生児1人を受け持ち、日数に応じた経過をたどっているかアセスメントし、必要な看護を行う。 新生児の看護やハイリスク新生児に関する知識・技術を習得する。 (4)分娩室（1日間） 分娩見学をととして看護に関する知識、技術を習得する。 (5)産婦人科外来（1日間） 2人の妊婦を受け持ち、妊娠経過をアセスメントし、必要な看護を行う。 (6)学びの会（実習10日目） 情報共有し、学びを深める。 (7)学内学習日 （実習1日目） 産褥期・新生児の事例をもとにシミュレーションを行う。 妊婦の健康診査のシミュレーションを行う。 （実習11日目） 実習での経験を振り返り、自己の学びをまとめる。文献などでエビデンスを確認する。 グループで情報共有を行い、学びを深める。								
評価方法	実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。								
テキスト	講義で使用したテキストおよび授業資料								

令和 7 年度 シラバス (第 二 看 護 学 科)

授業科目	小児看護学実習	担当 教員	篠田 由佳里	開講 年次	2年次～ 3年次	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的 小児の成長・発達を理解し、健康な小児と健康を障害された小児及びその家族に看護ができる									
目標 1 小児の成長・発達段階、健康状態、及び小児を取り巻く環境を理解する。 2 小児の成長・発達段階をふまえ、その子と家族のもつ力を引き出す看護を理解する。 3 小児の成長・発達及び健康状態に応じた基礎的看護技術を身につける。 4 小児の生命の尊厳と人権を尊重し、看護専門職として小児及び家族と援助関係を形成する基礎的能力を身につける。 5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 6 小児と家族を取り巻く保健医療福祉及び教育との連携を知り、多職種間における看護の役割を理解する。 7 小児看護学実習をとおして、その子らしい生活を支えるための看護を考える。									
実習計画 1 実習期間 11日間 2 実習施設 萩市民病院 東病棟 小児科外来 萩市保健センター 萩市山田保育園 萩市立明倫小学校 萩市立椿東小学校 萩市立椿西小学校 3 実習方法 実習ラウンドに基づき、それぞれの実習場所に分かれ、実習を行う。 (1) 病棟実習 (3日間) 入院中の小児を受け持ち、看護過程を展開し、必要な看護を実施する。 学びの会(病棟実習最終日) 情報共有し、学びを深める。 (2) 小児科外来実習 (1日) 外来を受診している小児の診察、乳児健診、予防接種の見学と介助を行う。 (3) 保健センター実習 (1日間) 保健センターで行われる母子保健事業(乳幼児健診、健康相談)に参加し、身体計測を行う。 小児の成長発達の実際とその評価方法、家族の育児支援、他職種との連携を見学する。 (4) 保育園実習 (2日間) 0～1歳児、2～3歳児、3～4歳児の各クラスで、デイリープログラムに沿って乳幼児と関わる。 (5) 小学校実習 (2日間) 保健室や学級で児童と関わり、保健室や授業の展開に沿って実習する。 他職種との連携について見学する。 (6) 学内学習日 (2日間) (実習1日目) 小児の事例を基にシミュレーションを行う。 (実習11日目) 実習での経験を振り返り、自己の学びをまとめる。 文献などでエビデンスを確認する。 グループで情報共有を行い学びを深める。									
評価方法 実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポートにより総合的に評価する。									
テキスト 講義・演習で用いたテキスト、講義資料									

令和 7 年度 シラバス (第 二 看 護 学 科)

授業科目	精神看護学実習	担当 教員	高島 雄太	開講 年次	3 年次前期	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	精神障害の特性を理解し、精神に障害のある対象及び家族に看護ができる基礎的能力を養う。								
目標	1 精神に障害のある対象及び家族を理解する。 2 精神に障害のある対象の健康上の課題を明らかにし、解決につながる方法を学ぶ。 3 対象の精神障害に応じた援助技術を身につける。 4 精神に障害のある対象の人格を尊重し、援助関係を形成する基礎的能力を身につける。 5 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 6 精神保健・医療・福祉における看護師と多職種の役割・連携を理解する。 7 精神看護学実習をととして、その人らしい生活を支える看護について考える。								
実習計画	1 実習期間 11日間 2 実習施設 山口県立こころの医療センター ふたば園 障害福祉サービス事業所なないろ 3 実習方法 (1) 一人の対象を受け持ち、看護過程を展開し必要な看護を行う。 実習オリエンテーション(実習2日目) テーマカンファレンス(病棟毎) (実習5日目頃) 事例をもとに、実習指導者とカンファレンスを行う。 (2) 精神科の治療環境の見学 保護室見学 デイケア見学 (3) 事業所の実習(実習5～7日目頃) 就労継続支援、生活介護事業で対象と関わる。 (4) 学内学習日 (実習1日目) 治療環境についてグループワークや拘束体験を行う。 (実習11日目) 実習での経験を振り返り、自己の学びをまとめる。文献等でエビデンスを確認する。 全体学習会で情報共有を行い、学びを深める。								
評価方法	実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。								
テキスト	講義で使ったテキストおよび資料								

令和 7 年度シラバス（第二看護学科）

授業科目	在宅看護論実習 (在宅で療養する人を支える実習)	担当教員	村上 陽子	開講年次	3 年次前期	単位数	1	時間数	45
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的									
地域で生活しながら療養する人、あるいは障害を持ちながら生活する人とその家族を理解し、状態に応じた看護ができる基礎的能力を養う。									
目標									
1 地域で療養する人とその家族の生活環境、生活状況を理解する。 2 地域で療養する人とその家族の健康状態、生活状況に応じた日常生活援助、医療管理の実際を理解する。 3 在宅で生活している人とその家族への対応を身につける。 4 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 5 在宅療養を支援する社会資源を理解し、多職種連携・協働をとおして、切れ目のない支援について理解する。 6 在宅看護論実習をとおして、その人らしい生活を支えるためのより良い看護を考える。									
実習計画									
1 実習期間 6 日間 2 実習施設 訪問看護ステーション 地域医療福祉連携室 居宅介護支援事業所 3 実習方法 実習ラウンド表に基づき、グループに分かれ実習する。 各施設で実習開始時、施設のオリエンテーションを受ける。 実習終了時、各施設で振り返りまたはカンファレンスを行う。 (1) 地域医療福祉連携室 (1 日間) 指導者に同行し、受診・入院調整及び退院調整の実際を見学する。 (2) 居宅介護支援事業所 (1 日間) 指導者に同行し、退院調整及び居宅介護サービスの調整の実際を見学する。 (3) 訪問看護ステーション (3 日間) 訪問に同行し、療養者とその家族への援助の実際を見学及び指導者と一緒に実施する。 (4) 学内実習日 (1 日間) グループで実習での学びをまとめる。 文献などでエビデンスを確認する。 全体学習会で情報共有し、学びを深める。									
評価方法									
実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。									
テキスト									
講義・演習・実習オリエンテーションで指示したテキスト及び資料									

令和 7 年度 シラバス (第 二 看 護 学 科)

授業科目	統合実習	担当 教員	小西 恵 篠田由佳里	開講 年次	3 年次後期	単位数	2	時間数	90
実務経験	臨地実習のため、「実務経験のある教員等による授業科目」に該当								
目的	既習の知識・技術・態度を統合し、看護管理の実践及びチームの一員としての看護を経験し、看護実践に必要な基礎的能力を養う。								
目標	1 複数の受け持ち患者の状態を理解し、患者に行われている看護の優先順位がわかる。 2 チームで複数の受け持ち患者の状態・状況に応じた看護を実施する力を身につける。 3 病棟の看護管理の実践を知る。 4 看護師の役割と責任を理解し、誠実性・協調性・積極性を身につける。 5 その人らしい生活を支えるために、保健医療福祉チームの中で連携・協働して行われている看護の役割と継続看護について理解する。 6 統合実習をとおりてチームの一員として自己の課題を明確にする。								
実習計画	1 実習期間 11日間 2 実習施設 都志見病院 (3階病棟・6階病棟) 萩市民病院 (東病棟・西病棟) 3 実習方法 (1) 病棟オリエンテーション、看護管理オリエンテーション(実習1日目) (2) 複数受け持ち実習(5日間) 学生チームで複数患者の看護を実施する。 患者カンファレンス 患者情報の共有、病棟の看護計画を基にアセスメント、援助内容の検討、援助の成果の確認・修正、チームの行動計画の立案 リフレクション 学生チームの連携について学生間でリフレクションを行う。 看護目標に対する中間評価カンファレンス(実習6日目) 看護計画の評価・看護の方向性を指導者と確認する。 (3) 同行実習 看護管理者(1日間) 病棟管理者に同行し、管理の実践を見学する。 チームリーダー(1日間) チームリーダーに同行し、業務の実践を見学・介助する。 チームメンバー(1日間) チームメンバーに同行し、業務の実践を見学・介助する。 (4) テーマカンファレンス (5) 学習会(実習11日目) 学生チームごとに学びをまとめ発表する。 情報共有し、学びを深める。								
評価方法	実習評価表に基づき、実習場面の観察、実習記録の記載状況、個人面接、実習レポート、カンファレンスの参加状況などを総合的に評価する。								
テキスト	これまでの学習で使ったテキスト・講義資料								